

教皇フランシスコの遺志を継いで

タリタクム日本運営委員
山岸 素子

2025年4月に帰天された教皇フランシスコは、人身取引を「現代社会の生々しい傷」「残虐な惨劇」と表現され、特に弱い立場に置かれた被害者に深い共感を寄せられました。教皇は人身取引問題が全ての人に関わるものであり、解決には国際的な協力が不可欠であることを教皇メッセージや国際会議を通じて呼びかけてこられました。



「毎年、多くの罪のない男性、女性、子どもたちが搾取的労働や性的虐待、臓器売買の犠牲になっています。しかし、私たちはそれに慣れてしまい、普通のことのように考えているようです。これは嘆かわしいことです。人身取引は残酷な犯罪であり、私たちには現代の奴隷制とも言えるこの大疫病を根絶する義務があります。」（教皇フランシスコ、アンジェラス、2017年7月30日）



「私たちは目を背けてはなりません。人身取引という問題は、他人事ではなく私たち自身にも関わる問題なのです。偽善を捨て、現実を直視しなければなりません。」（教皇フランシスコ、現代奴隷制に関する国際フォーラムへのビデオメッセージ、2018年5月7日）

2019年には、教皇フランシスコの指導のもと、カトリック教会が長年にわたる実践と経験を基にまとめた「人身取引司牧指針」が策定されました。

この指針では、人身取引の定義と現状を明らかにし、特に教会が行ってきた取り組みを中心に、具体的な対応策を提示しています。さらに人間の商品化と搾取、ビジネスや移住者との関連性、社会の倫理的評価について考察しています。また、人身取引の被害者が社会に再統合される際に直面する課題と、教会が果たすべき支援の役割を示し、人身取引問題は全ての人々が協力して取り組むべき課題だと強調しています。

当時私は、難民移住移動者委員会が作成した日本語仮訳を担当させていただきました。

タリタクム日本でも、この司牧指針を改めて見直しつつ、教皇フランシスコの遺志を継承しながら人身取引根絶のための活動を続けていきたいと願います。

タリタクム日本 オンライン・セミナー
「東南アジアの現代の人身取引と
日本の若年層の性的・経済搾取の課題」

タリタクム日本運営委員長
シスター弘田 しずえ(ベリス・メルセス宣教修道女会)

6月7日(土)大東文化大学特任教授であり一般社団法人「コラボ」の理事を務められる齋藤百合子さんから、上記についてオンラインのレクチャーを頂きました。パワーポイント使用の70分のお話は、80、90年代の日本における人身取引の課題から、近年、東南アジアにおける特殊詐欺、インターネットによる児童ポルノ、臓器売買、子供兵士など、多様な人身取引の現実、さらに日本の若年層を対象とする性的、経済的搾取の課題などについて、ご自身の研究と体験に基づき、具体的で臨場感のある有意義な呼びかけとして、参加者の心に響くものでした。

東南アジアから日本へ 日本から東南アジアへ

1990年代の日本には、騙されてタイから不法に入国し、巨額の借金を返すために、無報酬で売春を強要された女性が、事件を起こして逮捕される事件が多く起こりました。齋藤さんは、人身取引の被害者である女性を支援して、10年近くタイに在住し、国際NGOや国際機関のリサーチャー、コンサルタントとして社会福祉事業に関わりました。人身取引研究の一環として、100人以上の被害者へのインタビューの記録は、貴重な資料として評価されています。21世紀の人身取引の実態は、インターネットの普及も伴って、さらに多様化し、その内容も、広がりも複雑化しています。今年2月に、日本の高校生が、ネットの情報に騙されてタイとミャンマーの国境の無法地帯で、特殊詐欺に加担させられた事件は記憶に新しいところです。また、人権無視の漁船に閉じ込められ、文字通りの奴隷労働を強いられているタイ、ミャンマー、ベトナム、ラオス、カンボジアの漁民の凄まじい現実があります。餓死者も出るような労働環境において、彼らが漁獲する魚を食べているのは、日本に住む私たちであることも見過ごせない事実です。さらに、コロナの間も激増した貧しい国の貧しい子供達を餌食にするサイバーセックス・トラフィッキングー人身取引ーがあります。子供に性的行為を強要して撮影し、先進工業国の嗜好者たちが安価に購入できるシステムが出来上がっているのです。被害者の子供たちが、どれほど心も体も傷つけられているのかを、自分ごととして受けとめ、人間性を共に取り戻す行動を展開し、社会を変革する営みをグローバルに実現している人たちの存在に励まされます。

タリタクム日本 春のオンラインセミナー2025

東南アジアの現代の人身取引と
日本の若年層の性的・経済搾取の課題

日時：2025年6月7日(土) 14時～16時
開催方法：Zoomによる開催
(13:30入室開始、英語通訳つき)

人身取引の形態は犯罪者らの需要に合わせて刻一刻と変容します。
しかし、強くされている者たちから搾取を食うという構造は変わりません。日本では80年代後半から90年代初頭にフィリピンやタイから女性たちが性風俗産業に人身取引された経緯がありますが、近年、日本から東南アジアへ特殊詐欺や性的搾取などの人身取引が激増している実態もあります。今回のセミナーでは東南アジアのタイを中心とした周辺諸国(ミャンマー、ラオス、インドネシアなど)の人身取引の現状とともに、日本の若年層の人身取引などさまざまな搾取(性的、経済的)に対する脆弱性とその課題を考えます。そして、こうした課題に立ち向かう民間団体の事例や、女性や少女が声を上げることが助産する実態についても共に考えていければと思います。みなさまのご参加をお待ちしています。

プログラム

開会の祈り：森山信三司教
(日本カトリック難民移住移動者委員会担当司教)

講演と質疑応答：齋藤百合子さん
(大東文化大学教員、一般社団法人Colabo理事)

閉会の挨拶と祈り：Sr.弘田しずえ
(タリタクム日本運営委員長)

事前申込が必要です。
左のQRコードもしくは以下のURLからお申し込みください。後ほどZoomリンクをお送りします。
<http://forms.gle/mKhuG9Kc5GyHdA>

主催：お問い合わせ先
日本カトリック難民移住移動者委員会 www.colabo.or.jp

日本の若年層を対象とする性的、経済的搾取 コラボの活動

困難を抱え、「助けて」と言えない少女が、暴力に行きつかなくて良い社会を目指し、「衣食住」と「関係性」を持てるように寄り添う活動を続けているコラボが、今、暴力的な攻撃を受け、少女たちに近い新宿の場所から、活動の場所を移さなければならない状況に追い込まれています。中傷誹謗のメッセージをネットに流し、生命を脅かすほどの攻撃をするのは、性産業から莫大な利益を得ている反社会的勢力です。少女たちの多くは、家庭内暴力の被害者であり、頼りになる大人も、信頼できる友人も持たず、日常的に居場所を持たず、経済的にも困窮し、人間らしく、安心して生きられるための最低限度の環境を必要としています。齋藤さんが理事を務めるコラボとの関わりについて、「ご飯食べない」という同じ目線の優しい誘いで、そのような少女たちとタイに行ったお話を伺いました。「ご飯食べると元気が出るんだね」という「発見」をした少女の話から、彼女がそれまで歩んできた傷だらけの人生と、安心して人の善意を受け入れられる環境の大切さを、コラボの活動を通して感じました。感謝。



ご支援のお願い **Colabo**

私たちの活動は、みなさまのご支援に支えられています。継続して活動を支えるサポーター会員や活動資金や物品寄付など様々な形でご支援していただけます。よろしくお願いいたします。

口座振込で寄付をする

ゆうちょ銀行（ゆうちょ銀行〈振替先選択で「記号番号」から振込の場合〉）
記号) 10150 番号) 91829801 名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

ゆうちょ銀行（他金融機関・ゆうちょ銀行〈振替先選択で「店名」から振込の場合〉）
店名) 〇一八（ゼロイチハチ）
店番) 018
口座) 普通 9182980
名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

三菱UFJ銀行
渋谷中央支店
口座) 普通 0363448
名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

Colaboへの物品寄付やサポーター申込みは下記フォームより受け付けています

Colaboホームページ
<https://colabo-official.net/support/>

Colaboでは、安全のために活動場所や、電話番号等を公開していません。応援者の方の訪問や、事前連絡のない物品等の郵送でのご寄付も受け付けておりません。ネットに載せられている住所は間違っていたり、物品受け取り場所もその都度変わることがあります。送りつけなどの被害も多数受けており、安全上対応を徹底しているため、ご理解ください。応援頂ける方は、事前にご相談ください。

『声を上げよう！ Raise your voice』

タリタクム日本ユースアンバサダー
西川 里加子

2025年2月23日、幼きイエス会（ニコラ・バレ）にて、ユースアンバサダー主催イベント『声を上げよう！ Raise your voice』を開催しました。当日は約30名の方にご参加いただきました。参加者の皆さま、また、開催にあたってご協力いただいた皆さまに、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。当日の様子やいただいた声をご紹介しますながら、イベントの振り返りをお届けしたいと思います。

今回のイベントでは、タイトル通り、「声を上げよう」をテーマに掲げました。

人身取引は非常に深刻な問題であるにもかかわらず、私たちの日常生活では見えにくく、「自分には関係のないこと」と思われがちです。だからこそ、まずはこの現実について知ってもらうことが、解決への第一歩だと考えています。今回のイベントは、より多くの人に人身取引の現状や私たちの活動について知っていただき、共に考え、分かち合い、声を上げるきっかけとなることを目的に、若者だけでなく幅広い年代の方を対象として開催しました。

当日の流れを簡単にご紹介します。



1・受付・開会の祈り / 2・ユースアンバサダーの紹介と自己紹介

自己紹介では、参加者の皆さまにこのイベントに期待することを

それぞれ共有していただきました。 / 3・タリタクムについての紹介 内容：国際的なネットワークとその活動、タリタクムという名の由来、ユースアンバサダーの役割、これまでの活動内容について。 / 4・交流会・ランチ / 5・メインプログラム：人身取引について、人身取引の定義、具体的な事例の紹介など、日本で起きている人身取引に焦点を当てた内容でお話ししました。 / 6・サバイバーの声（ビデオメッセージ）フィリピンサバイバーネットワークとのご縁で、サバイバーへのインタビューという、大変貴重な機会をいただきました。自身の体験や、どのように回復に向かったのか、そして人々や社会に求めることについてお話しいただきました。 / 7・グループワークとポスター作成：思ったこと、意見などをグループごとに自由に分かち合いました。ワークショップでは、今日学んだこと、感じたことをグループごとにポスター形式で作成。絵でも言葉でも何でもOK、とにかく自由に表現してもらいました。表現方法に各グループの個性が出ていたり、一人一人違う意見にも関わらず、それを上手く1枚の紙にまとめていたり、私たち自身も気付かされるが多かったです。 / 8・御ミサ・閉会の祈り。

イベント後、参加者の皆さまから多くの温かい声をいただきました。その一部を紹介します。

「イベントはとても有意義な時間でした。具体的な事例の紹介や、特にフィリピンの若者による心に響く実際の証言が印象的でした。「人身取引の定義」についての説明も、人身取引の現状とその深刻さをより深く理解するために、大変役立ちました。この問題に対して「声を上げ続けなくては」と改めて思い知らされました。準備や進行を担当されたユースアンバサダーに感謝しています。ありがとうございました。」

今回のイベントは、私にとって初めての開催でした。一つのイベントを企画し、準備から実行まで行うことは決して簡単なことではありませんでしたが、仲間と共に試行錯誤を重ね、意見を交わしながら一つの目標に向かって取り組みやり遂げることができたのは、大きな達成感につながりました。そして何よりも嬉しかった

のは、参加者の皆さまに、私たちが人身取引という社会問題に真剣に向き合い、強い関心を持って活動していることを知っていただけたこと、そしてこの

問題について共に考える時間を持てたことで

す。参加者の皆さんの真剣なまなざしや、深い対話の時間を通して、「やってよかった」と心から思える機会になりました。また、人身取引という問題に対して、一方的に情報を発信するだけではなく、皆で一緒に考え、感じ、意見を交わすことの大切さを実感しました。人身取引は、非常に大きく深刻な問題であり、決して一人では立ち向かうことはできません。だからこそ、私たちは協力し、つながり合い、共に立ち向かっていく必要があるのだと改めて実感しました。そして、幸いなことに私たちは、神様を中心に、その教えや祈りを通してすでに一つにつながっています。この深いつながりは、困難に立ち向かう私たちの大きな支えであり、希望そのものです。今回の反省や学びを踏まえ、今後もこうした気づきや想いを分かち合える場をつくっていきたいと考えています。私たちの活動を通して、一人ひとりの声と想いがつながり、やがて広がっていくような、そんなきっかけを作り続けられますように。

「このイベントのおかげで、どれだけ私達一人一人の声が大事だということをもう一度よく理解することができました。ワークショップでは、沢山の意見交換ができ、私たちが日々考えなければならないこと、今からできることを話し合うことができました。」

「多くの貴重な学びがありましたが、中でも『人身売買』ではなく『人身取引』という、より広い意味をもつ言葉を知れたのは大きな発見でした。グループワークの時間にユースアンバサダーの方が進行役として加わってくれたのもとても良かったです。次回はもっとグループシェアの時間が長くなると嬉しいです。変化を起こし、希望を分かち合おうとしている仲間たちと共に過ごせた時間は本当に意味のあるものでした。」



ベトナム人ホットラインとタリタクム日本のシェルター活動

タリタクム日本運営委員

山岸素子

日本カトリック難民移住移動者委員会（J-CaRM）は、技能実習生権利ネットワークと共催し、新型コロナウイルス感染症が拡大した2020年、ベトナム人の生活困窮や労働問題に関する緊急相談を受けるため、ベトナム人技能実習ホットラインをスタートしました。

2021年からは、イエズス会社会司牧センターと移住者と連帯する全国ネットワークも加わり、「労働・生活ホットライン」として活動を続けています。このホットラインでは、低賃金や長時間労働、暴力被害など、人権侵害や労働搾取に苦しむ技能実習生からのSOSに、札幌、仙台、茨城、東京、岐阜、大阪、福山、北九州の全国8拠点でオンラインでの相談対応をしています。2025年5月までに28回のホットラインを開催し、相談件数は600件を超えました。

これまでも、妊娠・出産や職場内でのトラブルを理由に、突然の解雇や強制帰国を迫られ、緊急保護が必要となった事例があり、タリタクムのリストに登録している修道会に保護をお願いしてきました。

自動車整備工場で働いていたGさんは、昨年より繰り返し配置転換された後、今年のはじめに突然解雇を言い渡され、帰国を強要されそうになりました。タリタクムに登録している修道院のシェルターに保護されてから4ヶ月以上が経過し、現在は労働組合が会社と交渉して再雇用という形で元の会社の支所へ戻れる見通しがついたところです。また、介護施設で働いていたSさんは、同僚とのトラブルにより会社との間で誤解が生じ、解雇と帰国を言い渡され、強制帰国を逃れるために、5月にシェルターに保護されたばかりです。

2人を心よく受け入れてくださった修道院では、共同体の中に2人の居場所を準備してくださいました。GさんとSさんは、朝昼晩の食事をシスター方と共にし、皿洗いや掃除を手伝いながら、日本語を教わったり談笑したりするなど、共同体に溶け込んだ生活を送っています。

シスター方は「私たちのところに来てくださってありがとうございます」と温かく迎えてくださいます。保護当初は会社の対応に怯え、夜も眠れないほど不安だった2人でしたが、今では健康を回復し、笑顔を取り戻しました。「会社との交渉が長引いても大丈夫。ゆっくりしてね。私たちも手伝ってもらって、助かっています」と言ってくれるシスター方の寛容さと温かさに、2人がどれほど救われたことでしょうか。タリタクムの活動の中で、このように共に生きる実践が広がっていくことを心から願います。



若者の声

希望の大使として歩む：ローマからの呼びかけ

タリタクム日本ユースアンバサダー
クリスタル・エイリーン

2025年2月1日から8日に、世界各国の若者がローマに集い、「人身取引に反対する祈りと啓発の国際デー」のもとイベントが開催されました。希望の大聖年である今、タリタクム・ジャパンの一員としてこの国際的な集いに参加し、人身取引のない世界を目指す仲間たちと希望を分かち合う貴重な機会が与えられたことは私にとって大きなお恵みでした。

この一週間では、各国で活躍するユースアンバサダーたちとともに啓発活動、予防策、サバイバー支援の取り組みについて、実践的な方法や創造的なアイデアが活発に共有されました。

異なる文化や背景を持ちながらも、参加者全員に共通していたのは、深い使命感と連帯の意識でした。

印象深かったのは、あるサバイバーの証言です。静かな語り口の中に、深い強さと回復力が感じられ、経験を語る姿からは、変化を生み出す意志が強く伝わってきました。この声に触れたことで、人身取引と向き合う上で、当事者の声を中心に据える重要性を改めて認識しました。

プログラムの中では、ローマ教皇フランシスコとの謁見という特別な時間も与えられました。

教皇は、「多くの姉妹や兄弟が受けている恥ずべき搾取を決して容認してはならない」と強調し、「被害者とサバイバーを最優先に考える取り組みを続けてください」と呼びかけました。この言葉は、すべての参加者にとって新たな原動力となりました。



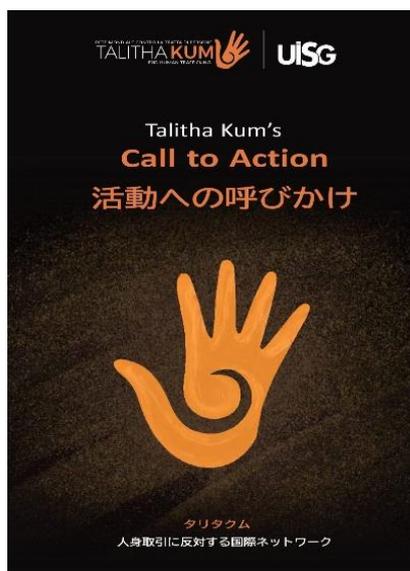
最終日には、世界各国の代表者たちが「アクション・コール(行動の呼びかけ)」を共同で作成しました。祈り、啓発活動、被害者の社会復帰支援、連携に関する具体的な行動が盛り込まれ、国際的な協力のもと、「希望の大使」として歩み続ける決意が形になりました。

このローマでの体験は、ただの国際会議ではなく、「派遣のとき」とも言えるものでした。

私はこの経験を糧に、これからも声を上げ、共に歩み、人間の尊厳という光が絶えることのない社会を目指して行動を続けていくことを呼びかけていきます。



『Call to Action(活動への呼びかけ)』邦訳ブックレットのご案内



タリタクム・インターナショナルの公文書『活動への呼びかけ(Call to Action)』の日本語訳ブックレットについて、改めてご紹介いたします。この公文書は、タリタクム 10 周年を記念して採択された最終宣言のもとに、2021 年に発表されました。そこには、タリタクムの 4 つの主要目標が掲げられ、その目標に向けた活動指針が明記されています。連帯と活動のための靈性に基づく協力ネットワークの強化を目指し、人身取引という暴力の被害を受けている人びとに、どのように寄り添うかを具体的に説明する文書です。

右の QR コードもしくは URL (<https://x.gd/azQpj>) から全文をご覧いただけますので、是非、お目通しください。また、ご希望の方には、何部でも無料でお分けしますので、以下の新しいメールアドレスにご連絡ください。



タリタクム日本の新メールアドレス

タリタクム日本のメールアドレスが変わりました。当方にご連絡の際は以下の新アドレスにご送信ください。

japantalithakum@gmail.com

ご寄付のお願い

「タリタクム日本」では、人身取引被害者の救済活動や啓発活動など今後の活動のための募金をお願いしております。ご協力よろしくお願いたします。

郵便振替口座 00110-8-560351

加入者名 日本カトリック難民移住移動者委員会

「タリタクム日本活動支援」の欄にを入れるか、
通信欄に「タリタクム日本」と明記してください

日本カトリック難民移住移動者委員会

電話 : 03-5632-4441 FAX : 03-5632-7920 E-mail : japantalithakum@gmail.com